

砧中学校 PTA 会員の皆様

世田谷区立砧中学校 PTA 会長 松岡 文子
砧中学校、砧・明正・山野小学校
砧の学び舎 4 校合同家庭教育学級委員会
砧中学校 家庭教育学級委員長 友實 一美

砧の学び舎 第 7 回 4 校合同講演会 開催報告 「叱らないしつけ」と「らくらく勉強法」

今年度も残り僅かとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

去る 1 月 23 日（月）に成城ホールにて『砧の学び舎』家庭教育学級を開催いたしました。総勢 250 名の方にご出席いただき、大盛況で終えることができました。スタッフ一同より感謝申し上げます。今回は親野智可等先生をお招きし、「叱らないしつけ」と「らくらく勉強法」をテーマに講演していただきました。その内容とご来賓の皆様のごあいさつを紹介させていただきます。

平成 29 年 1 月 23 日（月）

開催場所 : 成城ホール

講師 : 親野 智可等（おやのちから）先生

プロフィール : 教育評論家。公立小学校で 23 年間教師を務める。

『ドラゴン桜わが子の「東大合格力」を引き出す 7 つの親力』、『「叱らない」しつけ』などを著し、全国の学校の PTA、市町村の教育講演会で大人気となっている。



<参加者数>

砧中学校 42 名、砧小学校 37 名、明正小学校 62 名、山野小学校 97 名、来賓 12 名
合計 250 名

<ご来賓の方々のごあいさつ>

砧中学校 PTA 副会長 三海 奈々 様

私は 3 人の子どもを育てていますが、朝は慌しくついつい声を大きくしてしまうことがあります。送り出した後、もっと違ういい方があったかなとか、もう少し自分の心に余裕を持てたらと思うことが多くあります。今日はお話を伺って、私自身の親としての成長につなげることができればと思っております。ぜひ皆さんと一緒によい時間を過ごしたいと思います。

砧中学校 宇野 亮 校長先生

今日は「叱らないしつけ」と「らくらく勉強法」という講演内容で楽しみにしてまいりました。職場には若い先生もいますので、社会人としてのマナーや教員としての心構えなどを伝えていかなければならない場面も多く、いろいろな接し方があると思っております。子どもたちに同じことを指導するにしても、引き出しは多くあったほうが良いと思いますので今日は本当に楽しみです。よろしくお願いします。

教育委員会 社会教育指導員 平田 一 様

本日はこのような素晴らしい会場で、また多数ご参加いただきましてありがとうございました。

親野智可等先生には、家庭によくありがちな場面を具体的にご指導いただきました。それぞれが心に留めたことをご自宅で実践されたいかなと思います。いろいろなしつけがございしますが、まずはわが子になって欲しい子ども像を親が行動で示していくのが大切だと思います。親野先生、力いっぱいのお話ありがとうございました。

<講演内容の紹介>

1 初めに

子育ては、ほかにかえがたい楽しさがある一方で「話を聞かない、勉強してくれない、やらなくていいことをする、しつげができない」とお悩みはたくさんあると思います。「まだ～していないの?」「～しなきゃダメでしょ!」「何度いったらわかるの!」という言葉がつい口をついて出てしまうことも多いはずですが、最近の児童学、児童心理学の研究により、こういった否定的な要素を伴う言葉には、大きな弊害があることがわかってきました。

① 子どもが自分に自信を持てなくなる（自己肯定感の損失）

伸びていこうとする芽を自ら摘み取ってしまう。何ごとに対しても、「どうせ自分なんかダメだよ」「できない、頑張れない」「どうせ無理だよ」と自己否定してしまう。

② 不愉快（心の窓が閉まる）

否定的な言葉をかけられた子どもは「自分が咎められた、自分が否定された」と感じてしまう。頭ではわかるけれど、自分を否定されてしまうと素直に聞くことができなくなってしまいます。

③ 不信感（親からの愛情が不足していると感じる）

「自分のこと嫌いなんだな」「自分は愛されていないのかも」
臨床心理学によると、愛情不足の子どもは不安で仕方なく、「不安を解消したい」という強い衝動にかられる行動に出てしまう。

④ 不安を解消する行動（愛情確認行動）

反社会的行動。火遊び、盗み、落書き、物を壊す、夜の街を徘徊、出会い系サイトにはまる、弟妹やクラスの弱い子をいじめる、などといった問題行動を起こす。そして、親が心配したり、困惑して涙を流したり、困っている姿を見て、子どもは「自分のことを心配してくれている」「これは愛されている証だ」と確信を得ようとする。

その結果、親子関係が崩壊！ では、どうしたらよいの？



2 合理的な工夫「楽勉」～生活や遊びの中で楽に楽しく勉強する方法～

・本物体験

たとえば、実際に自分の目で本物の土星を観察してみる。後日、テレビで「土星で新しい衛星が発見されました」というニュースが流れた際に、「土星?!知っているよ!」と興味が引っかかってくるのです。

・知識の杭

土星を自分の目で見たという、非常にインパクトのある体験が、「知識の杭」となります。流れる川に1本の杭を打つと、流れてくる物が杭に引っかかってきます。知識の杭を打ち込めば、興味の引っ掛かりがどんどん大きくなります。勉強が好きでよくできる子は、こういう杭をたくさん持っていますね。

・学習漫画

これは素晴らしいです。一家に100冊学習漫画があるとよいですね。漫画は読みやすいし、知識は膨大です。イラストや漫画の中で記憶するのでビジュアル記憶もできる。非常に効果的です。

・図鑑

最近のテーマ型の図鑑は子どもが面白いと感じるものがたくさんあります。「くらべる図鑑」「なぜ?の図鑑」「ひみつの図鑑」など。図鑑は一家に50冊あれば、「勉強しなさい!」というよりよほど知識が高まります。

・地図・地図帳・地球儀

たとえばCMなどで見た場所を地球儀で探して、地図帳にマーキングします。同じCMを見ると、映像が無意識のうちにフラッシュバックします。これが、知識の定着となるのです。

・かるた

星座かるた、ことわざかるた、俳句かるた、短歌かるた、部首かるた、画用紙ですぐ作ることができます。頭ごなしに「覚えなさい」というより、何度か遊べば自然と覚えてしまいます。

・楽勉ポスター

世界の暖流寒流ポスター、歴史の楽勉ポスターなど多種多様なものがあります。

・小学生・中学生新聞

6年生を教えていて子どもたちが一番つまらないと感じているのが公民分野でした。公民分野を子ども向けにわかりやすく書いている子ども新聞は、大人でも勉強になります。

・一点突破全面展開

得意分野に全力投球することです。1つが伸びれば自信がつき、自己肯定感を高くしてくれます。苦手なことへの自信にもつながります。たとえば、さかなクン。彼のお母さんはさかなクンの好きなことを全面的に応援しました。彼は大好きな魚のことを一生懸命覚え、研究し、頭がどんどんよくなりました。好きなことに夢中になっていると、シナプスがどんどん増え、それが多いほど頭がよくなります。脳の性能がアップしたときに勉強をすれば頭にスイスイと入っていきます。・

・ とりあえず準備方式、勉強に取り掛かりやすくなる方法

勉強に取りかかるハードルをさげる工夫をしましょう。あるお母さんは、玄関に口が広めの浅い箱を置き、遊びに行く前の子どもに、「遊びから帰ったらカバンの中身をこの箱に全部出そう」と声をかけます。すると、遊びから帰ってきたときに宿題が出ていると手に取りやすくなります。次の一歩としては、勉強に必要なものだけ取り出して机に乗せておくのもよい方法です。

・ とりあえず一問方式

子どもに「宿題一問だけやったら遊んでいいよ」と声をかけます。一問やるときに「だいたいこのくらいだな」と、全体の見通しがつきます。見通しをつけてから遊ぶと、帰ってから取りかかる際のハードルがさがり、やる気がわいてきます。

・ 模擬時計

子どもは目に見えない時間という量を扱うのが苦手です。ですから「見える化」してあげるのです。アナログ時計の周りに、針のない時計の絵を画用紙に書いて貼り、守らせたい時刻を示す針を書きこみます。2つの時計を見比べることで、残り時間が可視化されひと目でわかります。「あと3分よ」というより、時間に敏感になります。また決めた時間に、自分で決めた音楽を流し、勉強を始める合図にします。学校でも使っている方法ですね。子どもは条件反射に弱いのです。

3 「子どものうちなら直せる」は間違い

このように「合理的な工夫」は効果の高い方法です。しかし、叱っても、工夫しても、なかなか直らない子もいます。スローペース、なんでも後回しにする、内向的、片付けができないなど・・・これらはみな生まれつきの要素が高いのです。子どもの脳は乾いたスポンジと同じで、新しいものを吸収するのは早いです。しかし、持って生まれた資質を作り変えるのは非常に難しく、強烈なモチベーションや強い意志力、そして工夫する能力が高くないとできません。だから「子どものうちなら直せる」というのは正しくありません。



4 酸っぱい葡萄効果

イソップ童話で葡萄が取れず諦めた狐が最後にいう言葉が「あの葡萄はきっと酸っぱいから僕は食べないのだ」です。成長の時期はひとりひとり違います。人間の能力は、空間把握や言語能力、方向感覚などがバラバラに成長していきます。「今、直さなくてもいい」これが子育てのコツです。直らないときは諦めてください。「諦める」とは、みなさんが楽しみながら代わりにやってあげることです。叱りながらやると、それがその子の中で価値の低いものになってしまいます。「酸っぱい葡萄効果」が働くのです。葡萄の価値をさげることで自分のエゴを保つのです。明るく楽しくやってあげてれば、子どもは「～は楽しいものなんだな、ありがとうお母さん！」と、素直な気持ちになれます。この方がよっぽど自立します。やってあげると自立できないというのは間違った思い込みです。また親や先生がガミガミと叱って、子どもの自己肯定感をボロボロにしてしまうと、スイッチが入る時期が来ても自分で押すことができません。

5 言葉の工夫

否定的に咎めずに伝えること、これがとても大事です。現在はコーチングやアサーションなど、いろいろなノウハウがあります。ぜひ学んでください。「～しないとダメ！」ではなく「～するといいよ」に変えて、褒めてあげてください。

6 共感の大切さ

共感を大切にしてください。子どもの話を共感的に聞いてあげると、子どもは全部話せます。全部話すと子どもはスッキリするし、親にも理由がわかります。共感がないところで励ましたり、アドバイスしたりしても、子どもは「この人は自分がどんなに苦しいかわかっていない」と思ってしまいます。「A君がB君を叩いた」とか「兄が弟を叩いた」などの話は、別々に聞いてあげてください。正論を押し付けても、子どもを変えることはできません。子どもが気持ちを処理できないだけです。その気持ちを処理してあげられるのは「共感」です。「そうだったの、嫌だったね。お兄ちゃんも大変だね」と共感してあげると、子どもは嬉しいしスッキリする。「お母さんは／あの先生は、わかってくれている」親や先生への信頼感が、グーンと高まるのです。

7 最後に

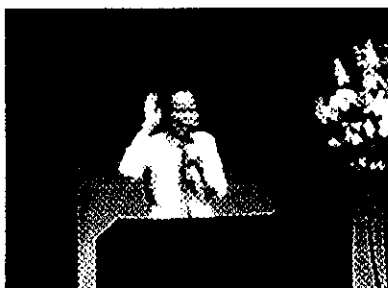
◎「親力で決まる子どもの将来」無料メールマガジン。

登録・解除は <http://www.oyaryoku.jp>

◎「親力講座」というブログもやっています。

ブログ内記事検索もありますので、ご利用ください。

女の子・男の子脳についても書いています。興味のある方はぜひ見てください。皆さまの安らかな生活を願っています。



<参加者アンケート報告>

アンケート提出数 192 枚

1.今日の講演会はいかがでしたか。

- ① 大変よかった 179 名
- ② よかった 13 名
- ③ よくなかった 0 名
- ④ どちらともいえない 0 名

2.講演時間はいかがでしたか。

- ① 長かった 3 名
- ② ちょうどよい 126 名
- ③ 短かった 61 名

3.今回の企画内容やイベント運営などについてのご意見、ご感想など。(一部紹介)

- ・ お話が面白くて、あっという間に時間になってしまいました。早速、メルマガ登録して、さらに勉強したいと思います。
- ・ とても楽しく、大切なことがぎっしり詰まった素敵なお話でした。今日から子どもたちにできるだけ文句をいわずに向き合っていこうと思います。お父さん方にもぜひ聞いていただきたいので、土曜日の開催も期待します。
- ・ 子どもは自分を変えることができない→やってあげる。共感が何よりも最優先。目からウロコでした。今後あらゆる場面で肝に命じておこうと思います。
- ・ 子どもの脳はスポンジで新しいものは入るけど、持って生まれた資質は簡単に変えられないことがわかり、接し方を考えようと思った。
- ・ 子どもの苦手（起きられない、片付けられない）は子どものうちに直さなくていいのだとわかり、気持ち楽になった。
- ・ 共感することの大切さと、子育てはもっと長期的な視野を持たなければいけないと改めて感じました。子どもたちの自己肯定感を高められるように頑張りたいと思います。
- ・ 「一番の罪は、親が子どもの自己肯定感を奪うこと」心にグサッと刺さりました。
- ・ リズムある話し方で、体験や実践的な内容が多く、わかりやすく楽しかったです。
- ・ 難しいことは後回しにし、伸ばせることを先に目を向ける、心に残りました。
- ・ 講演会がとてもよかったので、ブログもチェックしてみます。
- ・ 学習漫画 100 冊、図鑑 50 冊、カルタなどすぐに購入したいです。
- ・ それぞれ個性があり、その子にあった対応が大切だと思いました。
- ・ 自分のことを考え直す機会となりました。
- ・ 反省と発見に満ちた有意義な時間でした。
- ・ 時間が短く、もっとお話を聴きたかったです。
- ・ 質疑応答があればよかったです。



教育現場で活躍された親野先生は、日常よくありがちな場面を例に交えながらお話くださり、笑顔あふれる楽しい講演会となりました。子育てのヒントを得られた方も多かったのではないのでしょうか。ぜひ少しでも実践し、より楽しい子育て、そして子どもの成長につなげていただければ幸いです。

ご参加くださった皆様ありがとうございました。

家庭教育学級委員一同